

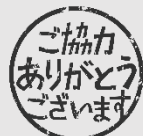
# よっ葉だより

2023年  
8月14日号  
No.756

◆新型コロナウイルス感染症対策たすけあい募金◆



栃木県 860  
茨城県 862



## 宇都宮空襲と小金井空襲の記憶

### 築 昌子さんのお話

昭和20年7月12日深夜、行われたのがB29の爆撃です。

二荒山のすぐ前の今小路町、現在の2番町に住んでいました。私は10歳でした。その頃の家は、蛍光灯なんて無くて普通の笠に裸電球、それに黒い布を巻いていました。空襲警報が鳴ったら父の「押し入れに入れ！」という声がかかり、押し入れに入り、解除されたら、電気の黒い布を取って明かりを付けました。それが毎日続きました。

#### 宇都宮空襲の夜

いつも枕元には防空頭巾、逃げる支度、そして一番大事な学校のランドセルを置いて寝ました。7月12日深夜は、父に「起きろ!」と起こされた時にはもう、私の家の裏には火が付いていたんです。「火はたき」はご存じですか? 今から考えたらおかしな話ですけど、縄を切ってハタキの様につくり、長い竿に括り付けて、バケツの水につけ、それで落ちた爆弾を消せっていうのが、町内会なんです。ですから、今にしてみれば本当にとんでもない事だったんですけど、そういう訓練を毎日、母たち婦人会の人たちはやらされていたのね。

本当に7月12日に父に起こされた時は、私の家の裏も、日野町通も(火が出ていて)、逃げる道は一本だけあったので助かったのです。今のオリオン通り、あの道が日野町から今小路までは、焼夷弾が落とされましたから、家は全部燃えていました。大雨が降っていましたので、着の身着のまま、母は3才の末の妹をおんぶする暇もないから、素肌に入れて帯で縛って、私たちもびしょぬれでした。母が寝床から「掻い巻き」を「これを被っていきなさい」と放ってくれて、被って逃げていたのですが、班長さんが来て、掻い巻きの襟が白いと、飛行機から見えると言う。そういう時代。掻い巻きを被ってはいけないと言われて。びしょぬれで逃げました。日野町は火の海、オリオン通りも火の海。母がおしゅうとめさんと一緒に逃げたのですが、爆弾だ、焼夷弾だと、開いているお家にもどこでも逃げ込むんですよね。その混乱の中、おしゅうとめさんとはぐれてしまったのね。ですから、子どもよりも、おしゅうとめさんとはぐれてしまったことで母は半狂乱でした。でも私の姉が祖母の手をひいて逃げてくれていたのです。

そんなことがあって、東武のところまで行きついたので。父がいつも「これだけはもって逃げてくれ」と言っていたトランク、そこには印鑑や通帳やらが入っていましたが、それを誰も持つ人がいないでしょ。母は妹やおしゅうとめさんで手がふさがっているし。しょうがないので私はランドセルを背負って、トランクを手で持って逃げたのです。雨に濡れて重くなりましたが、でも父に言われた大事なものなので、私、東武のところまで自分の一番大



JR 小金井駅ロータリーの慰霊碑

事なランドセルは捨てました。それで、東武のところからトランクを持って、鶴田の方へ逃げました。

雨に濡れながら、途中でトイレに行きたくなって母に「おしっこ」と言ったら「歩きながらしなさい」というんです。いくら子どもだって、歩きながらなんてできるものじゃない。でもついに我慢できず、歩きながらしました。その時の、雨に濡れた足をおしっこが伝う気持ちの悪さがいまだに記憶に残っていて、夜中にトイレで目が覚める時に蘇って飛び起きてしまいます。

現在の鹿沼街道に羽黒神社があります。神社の前のあの辺は全部田んぼでした。その中の、ある農家の家の馬小屋に、逃げてきた大勢の人たちと、妹を抱いた母と入って、うずくまっていた。でも母はおしゅうとめさんとはぐれてしまったから探さないといけないと、私に「あなたは一人で帰ってきなさい」と言って行ってしまったの。子どもよりなによりおしゅうとめさんなのね。

「一人でどう帰っていいかわからない」と思ったけれど、夜が明けたら他の人たちもどこへどう行くのか、散らばっていったから、私も外へ出たら、そこから二荒山が見えたんです。全部宇都宮が焼けて、焼け野原だから、二荒山が見えたんですよ。二荒山に向かっていけば家に着く。それで一人で歩きました。中央小学校も焼けていました。家の場所まで行ってみると、焼け残った板に墨で「生きていたらここに来い」と言う父の書き置きがあり、「父が生きている」とわかりました。ちょうどそこへ母も来ました。走ってきた母が最初に見たのが、焼けた中に一斗缶があって、そこにはお米が入っていたのですが、走って行って真っ先に一斗缶の蓋を開け、真っ黒なお米の真ん中に、焼け残ったお米がこのくらい(両手ですくえるほど)あったのね、子どもよりなによりも、そのお米を大事に持ちました。母と一緒に父の示した所に行きました。その辺までが、焼けた次の日の記憶です。

逃げる時、父はエバマン(染物店)さんと一緒に今小路を最後に出て、今小路からまっすぐ来て突き当たりが第一銀行ですが、あそこで何人もの人が行き止まり。

第一銀行のシャッターが真っ赤に焼けていたそうです。父とエバマンさんは防火水槽の、熱せられた水（お湯）を被って、やけどがすごかったですけど、助かりました。家族はこの空襲で一人も犠牲にならず、皆助かりました。



築 昌子さん

## 機銃掃射

大曾のご縁のある方の家に一週間ほど身を寄せましたが、いつまでも世話になれませんか、母の実家の新潟に疎開することになりました。でも汽車がないんです。いつも兵隊さん、ウマ、36部隊（作新の所が36部隊）がありましたから。兵隊さんは水戸やら、あちこち、ウマと一緒に移動しますし。作新の所の護国神社、あそこに亡くなった兵隊さんの奥



2023年7月28日の慰霊祭

さんか、娘さんか、親御さんか、遺骨を抱えてたくさん来ていました。だから切符が手に入らない。そんな中、父がやつのことで家族分のきっぷを手に入れて、宇都宮から上野行の汽車に乗りました。遺

骨を抱えた女性、ウマと一緒に兵隊さん、その汽車に乗って小金井の駅に行くところに、機銃掃射があったんです。新潟に疎開で逃げていく時に。それが小金井の機銃掃射なんです。

機関車がやられちゃったから、走れないんです。小金井の手前の、今は松林になっていますが、あそこで汽車が動かなくなっちゃったんです。窯が打たれてやられちゃったから。だけどそこで止まったらバリバリやられるだけでしょ。

兵隊さんが窓を椅子でふさいで見えないようにして、だってニヤッと笑いながら（低空飛行で）撃ってくるのですからね、ニヤッと笑って銃口を向けたのが私だったんですよ。私子どもだから、隣に他の方が座っていたのね、私、「あ、玉が飛んできた!」と思ってよけたもんだから、私の隣に座っていたお姉さんのここ（頬）…私がよけたから。よけなかったら私が頭をやられていたのだけど。ひやっとよけたから、玉がお姉さんのほほを掠ったのね、見上げてみたら、ザクロのように開いてた。ごめんなさい、ごめんなさい、と言ったけど、そんな間もなく父が「伏せろ!」と叫んで、皆伏せていた。

そしたら一人の男の人が窓から外に飛び降りたんです。畑の中に一人走って行ったら、やられるでしょ、みんなが「あーっ」と口を押えていたけど、そしたら、汽車が走り出したの。のろのろ行ったらは止まり、のろのろ行ったらは止まり、やっと小金井の駅で

止めてくれたんです。それで、降りろ!と言って逃げました。

飛行機が行った際に汽車を降りて、駅前に松葉屋さんと言う旅館があって、大きな防空壕があったんです。その防空壕の中に飛び込んだのですが、家族皆バラバラです。母がどう逃げたのか、わからない、すぐ下の妹もどう助けられたのか、彼女は、最近亡くなったのですが、脳性麻痺で体が不自由でしたから。姉と一緒にいたと思いますが、翌朝、そこで炊き出しがありました。婦人会の方たちがおにぎりをいくつかずつ下さいました。家族は皆無事でした。新潟の母の実家を目指しました。

## 新潟での疎開生活

大宮で乗り換えて新潟へ向かいました。大宮での乗り換えの時に、駅でリンゴを売っていて、父が一つ買って切り分けて食べようとしたところ、辺りに沢山いた戦争孤児たちが寄ってきて手を出すので、父はそのリンゴを孤児たちに与えました。皆飢えていました。

母の実家に着く、山一つ手前の親戚の家に一週間お世話になりました。白米をたくさん食べさせてくれたのですが、それまで芋やカボチャしか食べていなかったの、家族そろって大腸カタルになりました。回復してから、山を一つ歩いて越えて、ようやく母の実家にたどり着きました。初めて生きた心地です。

母の両親が二人で暮らしていたところに、うちからは6人、東京からは母の妹夫婦が押し掛けたわけ。叔父と叔母は満州から引き揚げてきましたから、叔母は髪を丸坊主にして、喉には布をぎざぎざにまいて（女性に見られないようにして）帰ってきましたから。1日や2日ならいいのですが。二人暮らしが10人に。どうやって食べていくか。結局食料がないですね。そうしたら母は朝の4時ごろに布団から抜け出していきました。弟がおなかをいたのですが、這うようにして段々畑の山に行くんです。私もそうっとなら行ったら、そこで鋤を持って行って畑起こしを始めたのです。鋤のカチンカチンと言う音が響き渡って、町長さんが驚いてやってきました。「お前たちこの夜中に何やってるんだ」と叱られ、母は「子どもたちに食料がないので大根の種でも蒔いて、食べさせようと思って…」と言うと町長さんが「宇都宮で焼け出されて来て、ここで食べさせないなんてことはない。私が明日お米を届けましょう」と。次の日、1俵、お米が届いたんです。本当に、初めて、私たち子どもも遠慮なくお代わりして食べる事が出来ました。



慰霊祭後の交流会でお話する築さん

いつ帰れるかわかりませんから、母は畑仕事をして、私はおむつの洗濯や、母の、昔は生理用品もありませんから、ネルの肌着を小さく切ったものを当てるのですが、それを小川に持って行って洗濯しました。昔の田舎は、肥やしに使うためトイレで紙を使わず、何と言ったかしら、葉っぱを干したのを積んでおいてそれを使うのだけど、上手に使えなくて…それもそのうち慣れました。満州帰りの叔母は、それこそ蛇取りですよ。マムシ。何も栄養がないからと、長靴を履いて山へ行って、帰ってくるとこのくらいのマムシを2本ぶら下げてるの。戸板の所に釘で頭を打ち付けて、スーッとむくと、きれいに白く蒲焼きみたいに身が残るのね、それを囲炉裏で焼いて、私たちに食べさせてくれた。これを食べないとだめだよ、栄養失調になるよ、と。だから叔母は毎日のように山へ行ってマムシ取りをしていたのです。噛まれたら大変じゃないですか、でも長靴を履いて、私たちに栄養を付けてくれたんです。当時は家の後ろの池に鯉がいて、鯉も食べさせてくれました。

学校へもわらじを履いて行きました。2里っていうと8キロかしら、山道を片道8キロ行かないと小学校がないんです。わらじが履きなれなくて、擦れて化膿してしまって、膝から下が腫れてしまい、学校も行けなくなる、そんなことが続いてね、父が迎えに来てくれたので暮れには宇都宮に帰ってきました。帰ってからは、焼け跡に父が立てたバラックにしばらく暮らしました。それが戦争の思い出です。一番つらかったのは小金井の機銃掃射ですね。大勢の方が亡くなってね。

戦後、小金井の「戦争を語る会」でも機銃掃射のことを誰も言わないから、私手を挙げて「なんで誰も言わないのですか。今日はそのことを話に来たんじゃないんですか？」と言ったら、ひとりの人が走ってきて、「築さん、今日は帰りは気を付けなさい。その話はしちゃだめなことになってた」と言われたんです。それからです、いろいろ体験を話し始めました。若林町長さんにお話しして、小金井の駅前に碑を建てて下さいました。

小金井のことで忘れられないのは、遺骨を抱えたお母さんがやられて、遺骨の箱が血に染まって、倒れられて、でもその倒れられた人たちの上を、逃げ場がないですから、皆、その上を踏んで外へ出た。兵隊さんは椅子を窓のところにやって中が見えないようにしたでしょ、その兵隊さんはやはり、亡くなられた。すごかったです。それが戦争です。

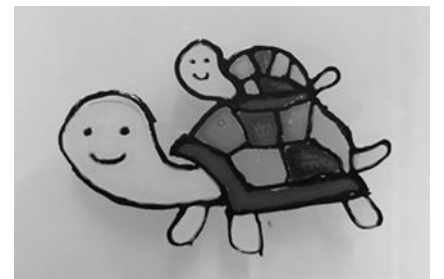
疎開したって、10人も集まれば喧嘩にもなるじゃない。子どもをこんなに連れて来てどうするんだって。食べ物もないのに。いくら兄弟でもね。それが私の子どものときに体験した戦争です。

宇都宮のご本丸、あそこにあった敷島幼稚園、そこで今までスカートだったのに、初めてモンペを履いたのが私でした。先生が「初めてモンペを履いてきたから」と写真を撮ってくれたのが、ご本丸跡の資料館にあります。

昭和20年に疎開先で弟が生まれて、母はおっぱいが出なくて、さつま芋を蒸かすと汁が出るじゃないですか、あれを弟は飲んで育ちました。薬もないから、ドクダミをハマグリの殻に入れて蒸し焼きにして薬にしました。

切り傷なんかにはよく効きますよ。焼酎漬けもいいです。

お釜に残った米粒を、母は集めて、カラカラに陽に干して、油で揚げてお菓子にしてくれました。…



築さんの作品

### 築 昌子さん

1935年生まれ 現在の宇都宮中央小学校入学。宇都宮市在住  
現在もパンフラワー教室を主宰されています。

☆宇都宮空襲、小金井空襲について語っていただいたものをまとめました。

## 文化イベント情報

■各イベントのお問い合わせは、直接主催者または連絡先にお問い合わせください。

### 那須塩原市ファミリーサポートセンター 「サポート会員養成講座開催」

【有償ボランティア】という形で地域の人と人をつなぎ子育て中の家族を応援しています。

お子さんをご自宅や広場で預かったり、自家用車で送迎ができる方を募集しています。

サポート会員になって、子育て中の家庭の『困った』に、あなたの手と時間をちょっとだけ貸してください！

日時：9/12（火）9：00～16：15

子どもの発育・発達、事故予防など

・9/30（土）9：00～16：00

小児救命講習・ファミサポについて

会場：東那須野公民館

参加費：無料

託児：無料 定員：20名

締切日：9月6日（水）

申込・お問合せ：那須塩原市ファミリーサポートセンター

TEL 0287-74-6252（9：00～18：00）



## よつ葉文庫

新刊登録

NO.1303 『こどものころの戦争記憶』

文 越川栄子 絵 やまなか ももこ（随想舎）



宇都宮在住の越川英子さんが、1941年4月に国民小学校に入学した時から1945年8月15日の戦争終結までの体験を絵本にしたものです。

宇都宮空襲の強烈な体験は鮮明に脳裏に焼きついているそうです。

宇都宮では600名の方が亡くなられ、決して小さい犠牲ではありませんでした。

戦争を直に体験された方の話を是非親子で読んで子どもに説明し、話し合っ

ていただければと思います。今もウクライナで毎日のように空爆が行われ戦争は今の出来事です。

（顧問 富居）

参加してみませんか

地産地消～守ろうふるさと のこそう緑の大地～  
秋山さん農業体験①「畑で野菜の種まきをしよう！」



秋山さん第1回目は、大根など野菜の種まきをします。  
秋山さんの畑で直接交流をしながら体験をします。  
ご参加お待ちしております。  
日時：9月23日(土) 10:00~13:30 (受付9:45~)  
会場：グリーン研・秋山さんの畑(栃木県下野市町田900)

参加費：組合員 大人(中学生以上)200円 小学生以下無料  
一般 大人(中学生以上)300円 小学生以下無料  
定員：10家族程度 託児：なし  
締切日：9月8日(金)  
主催：よつ葉生協  
申込・問合せ：よつ葉生協 組合員組織部 TEL 0120-07-1613

オンライン Zoom

よつ葉のこだわりシリーズ〈お米編〉  
商品部の職員とNIPPA米の生産者田中さんのお話を聞いてみよう

新米が出てくる季節です！こだわりのお米を栽培する栃木市生産者の田中さんを迎え、お話や疑問質問にお答えいただきます。疑問質問や聞きたいことがありましたら、事前に受付しております。

日時：9月6日(水) 10:30~12:00 (受付10:20~)

会場：オンライン Zoom

参加費：無料

定員：30人 託児：なし

締切日：8月25日(金)

※このイベントは、よつ葉生協ホームページで受け付けます。  
資料請求・ご入会・お問い合わせ から イベントの申込みをクリックしてください。

問合せ：よつ葉生協 組合員組織部 TEL 0120-07-1613



下妻

実験してみよう！  
暮らしの中の食品添加物

添加物って本当に危険なの？今回は暮らしの中の添加物について、とちぎ食育応援団の松下さんを講師にお迎えし、実際に目で見ながら実験を交えながら楽しく学びます。

日時：9月21日(木) 10:00~12:00 (受付9:45~)

会場：千代川公民館 1階和室(茨城県下妻市鬼怒230)

参加費：組合員 大人100円 一般 大人200円

定員：20人 託児：なし

締切日：9月1日(金)

主催：つくば委員会

問合せ：よつ葉生協 組合員組織部  
TEL 0120-07-1613

お子様連れ  
大歓迎♪



ご意見・ご感想をお寄せください。お名前と組合員番号をご記入の上、共同購入注文書またはお手紙でお願いします。掲載の方には粗品をプレゼントいたします。※掲載するにあたって事前ご連絡をすることはありませんので、ご了承ください。

<よつ葉だより休刊のお知らせ>

お盆休みのため8月21日号のよつ葉だよりは、お休みさせていただきます。ご理解の程よろしくお願い致します。



共通申込書

希望する行事名に  してください

秋山さん農業体験①

実験してみよう！暮らしの中の食品添加物

組合員番号	氏名
住所	
連絡のつきやすい電話番号☎	
参加人数 (大人) 組合員	人 ※同居の家族は組合員に含みます
(大人) 組合員以外	人
(小・中学生)	人 歳 歳 歳
(未就学児)	人 歳 歳 歳
参加者のアレルギー	無・有 ( )

託児：6カ月以上のお子様から	人 歳 歳 歳 歳
お子さんのアレルギー	無・有 ( )

備考欄

新型コロナウイルス感染症対策たすけあい募金報告(8月1週分)

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの助けあいの気持ちが広がっています (単位：円)

栃木コロナ支えあい基金 (860番)	2,500
茨城誰かのために募金 (862番)	900
合計	3,400

共同購入注文書の該当番号に数量をご記入ください。

WEB注文の場合は、左側【企画商品・募金】内の【募金関連】をクリック。一口100円の募金になります。

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告(8月1週分)

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています (単位：円)

放射能から子どもを守る募金 (900番)	5,300
震災孤児を支援する募金 (910番)	32,600
「有機農業と国産種子」募金 (920番)	8,400
合計	46,300

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。

WEB注文の場合は、左側【企画商品・募金】内の【募金関連】をクリック。一口100円の募金になります。

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮 1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <https://yotsubacoop.jp/>

よつ葉だよりメールアドレス [yotsubadayori@yotsuba-coop.jp](mailto:yotsubadayori@yotsuba-coop.jp)



ホームページ



Facebook



Instagram